



= 県都の優位性を活かした岐阜市へ =

平成24年 新春号

岐阜市議会議員（一人会派 クラブ青空） 和田直也

1 各メディアが報じるように、2012年は米、中、仏、露に加え、お隣の韓国や台湾においても首脳交代の1年となり、日本に目を転じれば、混沌とする国政情勢の中で総選挙があるかもしれないと言われています。大きく世界の政治が舵を切る中、国内の内政においては、昨秋の橋下新市長の誕生により、大阪維新が全国の地方自治体に波及するかもしれません。

2 橋下市長の真の狙いはこの国の「制度改革」。日本の政治は「官から民へ」とは言うものの、私たちは、それが制度としてどう形作られるのか具体的なイメージが持てない数年を過ごしてきたように思います。今までの常識を根底から転換しなくてはならない時代が到来しています。

3 政治家は「決断」をする仕事。「決断」をすれば当然批判が出ますが、しかし応援団も必ず生まれると信じています。市議会議員も地域を基本とはしながらも、議員ひとりひとりが岐阜市全体の目を持ち「都市ビジョン」が語れなければならない。それくらいの決意で臨まなくてはならない。なぜなら、岐阜市は市政も県政も国政も等しく選挙区は「1区」なのですから当然です。

4 僕は「県都 - 岐阜市」の今後をどうするかを語る際、「教育への投資」と「頭脳集積」の2本は外してはならないと考えます。前者は既に教育立市（都市ビジョン）として掲げているように「安心」を提供する「基礎自治体 - 岐阜市」としての都市戦略、後者は「県都 = 広域ビジョンを持つべく中

核市 - 岐阜市」としての都市戦略です。通常、県都には例えば大手企業の支店機能が配置されており、東京からも多くの人材が常駐しています。県都の優位性をきちんと活かし、都市間競争をどう乗り切るべきか、周囲の市町村をどう巻き込むか、この戦略と意識が岐阜市の各政策・施策に必要です。また、昨今言われる二重行政の最たる例は県庁所在地において多い。だから改めて、岐阜市として県庁 = 県政とのトップ及び事務レベルの連携が求められます。

5 30代は責任世代。僕も市議会議員として、日常の市民の皆様からのご要望・ご相談対応を大切にしながら、ひきつづき上記を念頭に置いて、単に議会質問（質す）だけでなく、具体的な調整役としても出来る最大限を尽くしていきたいと思っています。そして、その経過ならびに結果は「市政報告」という形で、インターネットや毎朝の駅前での街頭演説、紙媒体の議会だよりなど、あらゆる情報伝達手段を使ってきちんとご報告します。本年も厳しい目線で市政発展にエールを送ってください。

■ 岐阜市議会議員（クラブ青空） 和田直也

1980 - 岐阜市生まれ（岐阜幼稚園、木之本小、本荘中）
 1999 - 県立岐阜商業高校 国際コミュニケーション科
 2006 - 立命館大学大学院 修了（法学修士）
 会社員を経て
 2007 - 市議会議員 初当選（14位 / 44議席）
 2011 - 再選（現在2年生）（1位 / 41議席）
 所属 - 文教委員会、都市活性化対策特別委員会

■ クラブ青空って？

→ 07年の初当選時に旗揚げした会派の名前です。若いモンに頑張ってもらいたい！その期待に誠意を尽くすため一貫して続けています。1人でもできる、1人だからできることがたくさんあります。

岐阜市がやらなくてははいけないこと

- 1. 岐阜市は何で食べていくのかを明確化**
→ 教育・医療・産業・地産地消立市、既に4立市を打ち出しており、防災やエネルギーが加わろうとしている。全て大切な分野ですが、都市ビジョンとしては多い。
- 2. 県都の優位性を活かし、二重行政の是正**
→ 地の利を活かした都市戦略の明示、二重行政の洗い出しと県庁との連携。
- 3. 無関心は最大の敵！情報発信と共有推進**
→ 情報は発信したからといって受け取ってもらえるかどうかはわからない。わかりやすい情報提供と「解説」が必要。
- 4. 魅力創出と交通改革による都心回帰**
→ 中心部の衰退は不景気だけじゃない。駐車場でもない。交通改革と魅力づくり。
- 5. 地元企業の優れた技術の発掘とモデル化**
→ 脱前例主義。事務レベルの意識を改革。

僕の使命感（僕にできること）

- 1. 既に示されている「立市」の選択と充実策の提案**
→ シティ・セールス強化のための都市ビジョンは、もっと選択する必要がある。政策の実益は何をさらに研究調査する。
- 2. 「頭脳集積」に向けた政策提案と意見調整**
→ 大学研究機関等の誘致活動。
→ 市役所と県庁の「政策調整会議」創設の提案。
- 3. 勉強会の開催によるアイデア & 情報集約**
→ 「岐阜市版☆大人の社会見学」で公開視察を実施
→ 「青空ワークショップ」で市民のアイデアを集約
→ 「解説☆広報ぎふ」の定期開催で情報共有を推進
- 4. 実態調査と市内外への出張、交流の輪づくり**
→ 現場を徹底調査してデータ化、政策提案へ繋げる
→ 魅力ある店舗の中心部への誘致と交流空間づくり
- 5. 優れた技術の実用化に向けた仕組みの研究と提案**
→ 職員視察を調整するなど、企業と行政との橋渡し。

上記のテーマに関連した「議会質問」や「日常活動」を進めます。その経過や結果はHP & SNSで発信！
 + そして毎朝の駅前演説、議会だよりでもお届けします

和田直也

検索

2012 - Vision

！問題意識 いろいろ雑感

■ 自転車や駐車違反等の交通規制は警察の仕事でなくてもいいのでは。



→ 道路事情は全国津々浦々違います。駐車違反は警察OBでも対応頂いていますが、同時に地域のパトロールも既に青色回転灯「青パト」が大きな役割を担っています。現在の地方自治制度では直接問題解決には繋がりませんが、交通規制は道路管理者である地方自治体でも対応できるように思います。今後、例えば全国の若手議員のヨコの連携でも問題提起をしていきます。

議会基本条例の制定を

■ 議案の賛否は、市民の皆様へ報告されて当たり前ではないか。



→ 市役所の政策は、どこで誰が決めているのでしょうか。それは「市議会」において、選挙で付託された「市議会議員」が決めています。でも、何を議論しているのか、誰が賛成・反対しているのか、殆ど伝わっていません。採決に至っては、議員の賛否については記録すらとっていません。これでいいの。議会基本条例を制定し、議会報告会を義務付け、議員のレベルアップを図ります。

大好きな岐阜のまち
 水彩画 和田直也

